新しい公共の場づくりのためのモデル事業　自己評価シート

整理番号

事業名	東日本大震災に伴う被災地災害ボランティアセンター運営等支援事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、200 字以上～300 字以内で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	平成 24 年度に、被災地ボランティアセンター支援事業において長期・短期のコーディネーター派遣を行った陸前高田市においては、他の地域と比べても被害が甚大で、平成 24 年度も平日でも数百人、週末には 1,000 人近い災害ボランティアが活動に訪れることが想定されたため、長期派遣のコーディネーターを 24 年 9 月末まで継続して派遣することとした。2 名のスタッフを常駐させるため、派遣スタッフ 4 名、延べ 277 人日の派遣を行った。 ゴールデンウィーク及び夏季休暇時期の繁忙期には短期のコーディネーター派遣も行う計画であったが、4 月以降の地元災害ボランティアセンターの体制及び 1 日あたりの受入れ災害ボランティア数を 500 名と制限することとなったため、派遣を見送ることとなった。	4
2	市民性	他の市民活動団体が 24 年 3 月末で支援を引き上げるなど、陸前高田市災害ボランティアセンターのスタッフ体制が引き続き厳しい中で、毎日数百名の規模で訪れる災害ボランティアが活動する場を提供することができた。災害ボランティアの受入れ人数は、コーディネーターを派遣した４月から９月までの６か月間、月１万人から１万２千人の間を推移した。 この時期は、個人のボランティアに限らず。企業等の団体からのボランティアが大勢で活動に訪れるケースが増えており、その対応を適切に行い、円滑な受入れを行うことができ、企業の支援、社会人のボランティア活動への参加に広がった時期であった。	5
3	波及効果	いくつかの市民活動団体が支援活動から撤退する中で、以前多くの災害ボランティアニーズを抱える陸前高田市における災害ボランティアの受入れを円滑に進めることができた。そのことは、一方で陸前高田市の災害ボランティアセンターにおけるボランティア受入れがすぐれているという評判も生み、さらにボランティアが訪れるという結果を生んだ。 長期派遣のコーディネーターは、今後の災害時において、都内での災害ボランティアセンター運営の中核となる人材として、経験を積むことができた。	5

新しい公共の場づくりのためのモデル事業　自己評価シート

4	継続性		
5	マルチステークホルダー・プロセス	陸前高田市災害ボランティアセンター等と連携して、多くの災害ボランティアを受け入れるための業務を、東京都の支援も受けながら行うことができた。 また、陸前高田市における災害支援活動を行うNPO法人等の市民活動団体が構成する連絡会の事務局を陸前高田市社会福祉協議会が担当したため、その運営をとおして、他の市民活動団体との連携による被災地支援の取組みを行うことができた。	4

合計点　１８

ランク　S